

学内理容施設の変遷をたどる

2026（令和8）年3月、東山キャンパス内唯一の理容施設であった学生会館内の理容室が、ひっそりと閉店しました。あまり目立つことのない厚生施設ですが、今回はその変遷をたどります。

名大は、1950年代まではキャンパスが各地に分散していましたが、理容施設も同様で、東山・鶴舞・名城・滝子の4キャンパスそれぞれに「理髪所」がありました。1960年代に入り、学部などが東山に集まってくると、学生向けの理容施設もそこに集約されていきます。

1962（昭和37）年には、前年に完成した学生会館内に理容室が設置され、生協が経営しました。63年に文科系食堂が開設されると、そこにも理容室が置かれますが、業者の経営でした。学生便覧には、東山の2店、鶴舞の財団法人共済団経営の1店が載る状況が長く続きます。

当時の学生会館には、理容室以外にも、食堂や書籍売場、売店、クリーニング、時計修理などの諸施設が集まっ

ていました。1977年に旧北部厚生会館（現在、その跡地にLYKEION研究棟（仮称）を建設中）が新築されると、それらもそこに移りましたが、理容室だけは学生会館にとどまりました。

1993（平成5）年、アメニティハウスが新築されたことに伴い、その隣の文科系食堂が取り壊されました。文科系食堂の理容室を経営していた業者は、92年度に生協から学生会館の施設を買い取る形でそこへ移転したそうです。一方で92年度から、以前からあった職員会館の理容室（業者経営）が学生便覧に掲載されるようになりました。また97年度からは、鶴舞の理容室が学生便覧から消えました。ただし、その前から名大病院内には理容室があり、現在も営業しています。

その後、職員クラブ（旧職員会館）の理容室が2018年に閉店し、そしてこのたびのことで東山キャンパスから理容施設が消えることになりました。



- 1 学生会館の理容室の入口（1977年撮影）。玄関に入って右手の突き当りにあり、今年3月まで変わらなかった。「生協理容部」の看板も、「生協」をマスキングして最後まで使われていた。
- 2 学生会館の理容室内の様子（1977年撮影）。1964年の『生協ニュース』によると、理髪料は組合員価格170円で、市内のどこよりも安いとされている。
- 3 文科系食堂。現在の国際棟の南側にあった。このサイズでは見えづらいが、写真の左の方に理容店のサインボールが写っている。
- 4 学生会館の理容室内の様子（1990年頃）。生協による経営の最終年度である1991年度の供給高（売上高）は約686万円であった。
- 5 鏡ヶ池のすぐ近くにあった「男のヘアサロン カミヤ」の看板（1988年頃）。当時、名大の女子学生の割合は20%に達していなかった。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail archives@t.thers.ac.jp